



クレアパリ事務所による日仏交流促進の取り組み

(一財)自治体国際化協会パリ事務所 次長 山城 充 (東京都派遣)

所長補佐 島内 智子 (佐賀県派遣)

海外自治体幹部交流協力セミナー 報告会を実施

次長 山城 充 (東京都派遣)

2023年2月17日、クレアパリ事務所において、海外自治体幹部交流協力セミナーの報告会が開催されました。このセミナーは、海外の自治体幹部職員などを日本に招き、地方自治体が抱える共通課題に関する意見交換や地域の視察を行う目的でクレアが毎年実施しているプログラムです。コロナ禍における中止などを挟んで2年ぶりに開催された2022年度のセミナーでは、11月6日から15日にかけて、フランスおよびベルギーの地方自治体幹部職員7名が東京都と三重県鳥羽市を訪問しました。



中村鳥羽市長への表敬訪問 (2022年11月)

報告会での議論

報告会では、セミナー終了後に参加者が作成した約30ページにも及ぶ報告書に基づき、2時間程にわたって活発な議論が行われました。

「鳥羽市に外国人観光客を呼び込むには」というトピックについては、SWOT分析を用いて欧米人かつ行政マンとしての視点から議論がされました。参加者は、鳥羽市について、風光明媚な景色、趣のある街並み、真珠、

海女文化などの観光資源に加え、地元の新鮮な食材を使った食事や温かいおもてなしなどを高く評価していました。その一方で、欧米人観光客の嗜好などに合わせてマリンスポーツを楽しめる施設や遊歩道、外国語表示の標識の整備を進めるべきとの意見もありました。

また、話題は日本とフランスとの文化の違いにも及び、日本では路上にゴミが落ちておらず街がきれいであることや、日本では新型コロナウイルス感染症対策のマスクを着用する人が今でも多いことなど、参加者が日本で見てきたことを例に挙げながら活発な意見交換が行われました。

セミナー開催の意義

参加者からは、鳥羽市での温かいおもてなしに感謝するとともに、セミナー自体の意義を評価する感想も多く聞かれました。例年、参加者からはセミナーへの参加を通じて日本への関心や理解が深まったなどポジティブな声が聞かれ、セミナーを機にクレアや日本の自治体と参加者との間で良好な関係が築かれています。今年度、セミナー参加者の協力により、ベルギーの自治体では初となるクレアパリ事務所職員の職場研修が実現しました。このように、本セミナーはクレアや日本の自治体が現地で活動を行ううえで、大きな意義を有しています。



報告会の様子

本セミナーは、7名の参加者を温かく受け入れてくださった鳥羽市のご厚意により実施することができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第3回フランス語圏自治体幹部職員会議に出席

所長補佐 島内 智子（佐賀県派遣）

2023年2月8日から3日間、磁器で有名なフランス中部の街リモージュで、第3回フランス語圏自治体幹部職員会議が開催されました。これは、全仏自治体事務総長組合と全国地方公務員研修センターがフランス語圏における国際関係構築と連携を目的として開催している会議で、クレアパリはフランスにおける日本の自治体に関する機関として、2021年度から参加しています。今回は地域のためのデジタル活用をテーマとした会議のほか、職人になるための技術を学ぶ施設の視察が行われました。

デジタル化への懸念と対策に関する会議

フランスでも行政におけるデジタルの活用が進められており、情報格差問題やサイバー攻撃への対応など、自治体の対策が急務となっています。会議では、どのような懸念が想定されるのか、また、自治体職員としてどのような点に注意しなければいけないのかなど、デジタル行政の実例や実務に携わる職員の意見を交えながら紹介されました。



会議の様子

デジタル化によって利便性が高まる一方、年齢が高くなるにつれ、デジタルツールを使いこなせない住民が増えるのも事実です。登壇者からは、社会的問題を抱えている住民は、デジタル活用に関しても何らかの問題を抱えている可能性があるという指摘もありました。誰もがデジタル行政サービスにアクセスできるよう、サポート施設が整備されている地域もあるそうです。

また、サイバー攻撃を受けた場合のシミュレーションをしている自治体もあるそうです。リモージュが属するヌーベル・アキテーヌ州でも、複数の企業がシミュレーション用ツールを開発し、これらを活用した対策が進められています。

“職人技”を継承する取り組みの視察

視察では、職人を養成する施設「Centre Européen de Formation en Eco-Réhabilitation（欧州エコ改修研修センター）」を訪れました。フランスには、職人のもとで見習いとして働いてその技術を学び、継承していく仕組みがあり、今日でもそれが職業訓練制度として残っています。職人を目指す若者たちは、複数の都市や海外を巡って技術を磨きます。このセンターでは木工を中心に、実技と座学の両方で、職人に必要な知識と技術を身に付けることができ、この日も数十名の若者が作業をしていました。フランスにはこうした施設が各地にあり、ユネスコ無形文化遺産にも登録されています。



木工技術の授業について説明する Compagnon（職人）

このセンターでは、子ども向けのプログラムも開催されています。職人自ら、子どもたちに制作の工程やコツを教えます。さらに、高度な技術を知ることで、身近にある文化遺産の価値を認識することにもつながります。こうした取り組みが、人々の伝統建築の保護に対する意識を高め、歴史的なものを守り続ける文化を育てるのではないかと感じました。

日仏自治体交流の促進に向けて

クレアパリ事務所は、本稿でご紹介したような機会を通じて、今後もフランスの自治体関係者との良好な関係を築き、持続的な相互交流を推進していくとともに、フランスにおける先進的な取り組みについて情報を収集・発信し、自治体の国際活動を支援してまいります。